



造成協力地がある場合は、  
区域を表示すること。  
(凡例表示を含む)

公図に合わせて、里道(道)は赤色、水路(水)は青色を着色すること。

区域内外の現況高を示すこと。

隣接地は、地番、所有者を表示すること。

開発区域及び関連区域内は、地番、地目、所有者を表示すること。

官民境界確定日を表示すること。  
事前協議開始時点で確定していない場合は、現状の状況(現在確定に向けた立会中、今後立会予定など)を表示すること。

一筆の一部区域である場合はメガネ表示すること。

凡例を作成すること。

- 各図面共通事項**
- ・ 方位、縮尺を表示すること。
  - ・ 区域界を明確に(実線で太く)表示すること。(開発区域(赤線)、関連区域(緑線)、造成協力地(任意色線))
  - ・ 図面名、図番、作成日、作成者等を記入すること。
  - ・ 各種平面図において、現況道路名、有効道路幅員、河川名、区域内外の現況地盤高等を表示すること。また、山林や丘陵地などの傾斜地の場合は、2m毎の等高線を表示すること。
  - ・ 現況平面図以外の各種平面図について、周辺住宅の所有者名等の個人情報は表示しないこと。
  - ・ 琵琶湖付近の場合は、宅地の高さをTP+85.871m (TP+84.371+1.5m)以上で計画すること。
  - ・ できるだけTP表示で作図すること。

排出先構造物、取水・排水位置を図化すること。

流向も表示すること。

断面線を表示すること。

凡 例	
	開発区域線
	開発関連区域線
	境界線
	造成協力地
	法定外道路
	普通河川等
区域内土地表示	
	地番
	所有者
区域外土地表示	
	地番
	所有者

事業名	〇〇〇事業
事業場所	大津市〇〇-丁目
事業主	〇〇株式会社
設計者	〇〇株式会社 大津 太郎
製図年月日	令和〇年〇月〇日 版次 1/300
図面名	現況平面図
図番	1